

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 28 日現在

機関番号：33901

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23652196

研究課題名(和文) 中華世界にける「唐装」、「漢服」、「漢服運動」に関する人類学的研究

研究課題名(英文) Anthropological Study on Tang costume, Han costume and The Han costume Movement of Chinese.

研究代表者

周星(ZHOU, XING)

愛知大学・国際コミュニケーション学部・教授

研究者番号：00329591

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円、(間接経費) 570,000円

研究成果の概要(和文)：『中華世界における「唐装」、「漢服」、「漢服運動」に関する人類学的研究 - 平成23年度 - 25年度科学研究費補助金「挑戦的萌芽研究」研究成果報告書』(課題番号：23652196)、研究代表者：周星)、荒川印刷、平成26年3月発行。

報告書は中国大陸をはじめとして、台湾、香港、マカオ等を含む「中華世界」における「民族服装」に関する様々な動きおよびそれぞれ文化的ナショナリズムとの関係性を明らかにした。特に中国大陸の社会において、「民族服装」問題をめぐる論争の実態、漢服愛好者のサブカルチャーグループの成長、少数民族の「民族服装」の変容及び中国政府の「漢服運動」に対する基本姿勢などを究明した。

研究成果の概要(英文)：This report examines the multi-cultural trends of the national costume in the social life of China in the 21st century, including Tang costume first adopted in APEC Congress 2001 in Shanghai and the Han costume which has gradually come into fashion since 2004. This author goes behind the scenes of these new trends and looks deep into their background. Based on case studies, this author probes into the substance, characteristics, and operative pattern of the current Han costume movement, and the relationship between the national costume and question of Chinese national identity.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：中華世界 唐装 漢服 漢服運動 文化人類学 民族服装 サブカルチャー 構築主義

1. 研究開始当初の背景

「唐装」とは満州族や漢族の衣服が融合して形成された「中式服装」の一種である。2001年上海 APEC 首脳会議をきっかけに唐装ブームが起こり、唐装の復興が時代の流れとなったが、2004 年から古代漢民族の伝統服である「漢服」を復活させようとする「漢服運動」が中国の各都市で繰り広げられ、漢民族ナショナリズムをも引き起こしている。このように 21 世紀に入って現代中国では、「唐装」の流行、それに続く「漢服運動」の展開など、従来、少数民族の「民族衣装」問題とは異なる次元での「民族服装」ないしは「国服」に関する論説や実践的活動が活発化している。これまで漢民族や中国人の「民族服装」に関する学術研究は、歴史学・中国近代史の研究分野において行われてきた。これらは、近代中国人のファッションの変遷プロセスに注目し、歴史の変化に伴う「民族」や国民国家の在り方を明らかにしたものである。これらに対して、改革開放以後の中国社会における漢民族や中国人の「民族服装」問題をめぐる研究は、周星の「新チャイナ服、漢服と漢服運動 21 世紀初頭、中国の「民族衣装」に関する新しい動き」(韓敏編『革命の実践と表象 現代中国への人類学的アプローチ』、風響社、2009)などわずかである。周星の研究は、従来の歴史学的アプローチとは違った文化人類学的アプローチを試みたもので、中国人の民族的アイデンティティとの関係に焦点を当てて検討している。

2. 研究の目的

本研究は、「中華世界」における漢民族の「伝統衣装」をめぐる動きの傾向と影響力を探り、その可能性や限界を実証的調査によって明らかにすることを目的とする。「中華世界」は中国本土及び台湾・マカオ・香港を含む。漢民族の「伝統衣装」をめぐる動きは、「唐装」の復興から現在インターネット上の web サイトを中心に展開されている「漢服運動」に至る様々な動態や実践的営みを指す。ここ 10 年の中国における高度経済成長は社会や文化的な面に大きな変化をもたらしている。その文化的側面における大きな変化の一つとしてあげられるのがサブカルチャーコミュニティである。数多くのサブカルチャーコミュニティでは、新しい社会の動きと文化的流行が絶え間なく現れ、中国社会の価値観を複雑化、多様化、細分化する動きを促している。筆者はこれまで、中国の各都市で盛んになりつつある漢服運動について研究を行ってきた。これはまさにサブカルチャーコミュニティの活動と影響を示す典型的な事例であり、また、現代中国社会と文化を別の側面から理解する上で非常に重要な視点でもある。そこで筆者はこの漢服運動を中国におけるインターネット時代のサブカルチャーコミュニティと定義し、漢服運動のはじまり、そしてそのプロセスを整理し、その理

論的根拠、および実践活動の特徴と影響について深く掘り下げ、現在、中国社会においてインターネットの普及が進む中、漢服運動とインターネットの関わり、漢服運動に表現される漢民族ナショナリズム及びそのアイデンティティ等について明らかにする。

3. 研究の方法

文献研究法により関連する資料・データ・写真・記事等を収集し、分類整理をした上で、さらなる着実な人類学的フィールドワークを実施し、インタビュー調査も実施した。インターネット上の web サイトを媒体とする「漢服」愛好者の若者グループ及び彼らの活動なども調査対象とした。

文化人類学の民族誌的方法を用いて、漢服バーチャルコミュニティを研究することは十分可能で、先行研究の事例を参考にすることはできる。しかし筆者の考えでは、ネット上の漢服バーチャルコミュニティは独立した、あるいは自律的な研究対象にはなり得ない。むしろ漢服バーチャルコミュニティを漢服サブカルチャーコミュニティという研究対象の一部として理解すべきであると考えられる。ネット上の多くのバーチャルコミュニティは開放的であるため、容易に入ることが可能で、しかも知り合いが引き合わせたり、紹介状などの面倒な手続きをしなくてもよい。また、民族、性別、年齢、職業、などの制限もない。研究者にとっては簡単に「もぐり」で観察し、発言や討論(参与観察)そして、質問し教をを請う(インタビュー)ことができる。しかし、特定のネット用語や記号を把握する必要があるだけでなく、バーチャルコミュニティの匿名性、ネット上のマナーに関する問題(ネット上の交流に存在する特殊な困難)、ネット上でインタビューする際の困難(姿勢、表情、話しぶりなどの身体言語情報に欠ける)、またインターネットで交流する際には「短く、平等に、早く、簡潔に」する特徴があることを調査者は理解する必要があり、新たな挑戦に立ち向かうこととなる。そのため研究者は時々、ネットの調査は深入りしにくい等の問題を意識することが必ずある。だからこそ、特にバーチャルコミュニティは、研究対象である「同袍」サブカルチャーコミュニティの全てではないということを意識しなければならない。つまり、文化人類学の立場から漢服サブカルチャーコミュニティにインタビュー調査を行う時には、当然、やはりインターネット以外の部分にも及ぶべきであり、特に重要なのは現実の生活の中にある、漢服コミュニティの様々な活動の「現場」であり、それこそが筆者の「フィールド」である。インターネット上のバーチャルコミュニティ内で、漢服をテーマとした各種討論、交流、活動について検索、閲覧、観察することはもちろん重要である。しかし、「同袍」たちと顔を突き合わせてインタビューを行い、漢服活動の現場で直接参

与観察をすることは同様に、というよりはむしろ、さらに重要であるといえる。これはすなわち、人類学のフィールドワークの基本的方法が決して無効ではないということである。つまり、インターネット上の漢服バーチャルコミュニティの存在は、中国の社会及び文化生活の領域と完全に隔離し、性質の異なる世界では決してない。人類学者はむしろ現実の社会生活の中に繰り返し現れている漢服運動の実践活動が、相互に関連し、重層性を持つと見るべきである。すなわち、「同袍」たちの「オンライン」と「オフライン」には連続性があると考えらるべきである。

4. 研究成果

『中華世界における「唐装」、「漢服」、「漢服運動」に関する人類学的研究 - 平成23年度 - 25年度科学研究費補助金「挑戦的萌芽研究」研究成果報告書』(課題番号: 23652196) 研究代表者: 周星) 荒川印刷、平成26年3月発行。

報告書は中国大陸をはじめとして、台湾、香港、マカオ等を含む「中華世界」における「民族服装」に関する様々な動きおよびそれぞれ文化的ナショナリズムとの関係性を明らかにした。特に中国大陸の社会において、「民族服装」問題をめぐる論争の実態、漢民族の「民族衣装」問題と中国人の「国服」構築の試みとの絡み合い/ジレンマ、漢服愛好者のサブカルチャーグループの成長及びネットコミュニティとの関係性、少数民族の「民族服装」の変容及び中国政府の「漢服運動」に対する基本姿勢などを究明した。

本報告書では、斬新な着想や着実な現地調査にもとづく研究実践を行うことにより、中華世界におけるグローバル化とローカル化の同時進行の仕組みを考察し、新しい視座や課題を中国に関する文化人類学研究に提示することが可能であることを示し、本研究の成果が期待できるものとしては、巨大民族・文化体系を対象とする今後の文化人類学の発展や可能性に対して、参考となる価値をもつ研究例を示すことができるという点にある。

新しい時代の漢服運動は、インターネットから増殖し始め、インターネットの力を借り、インターネットを背景に、インターネットで成長した。漢服に関する議論、論争、提唱は主にネット上のwebサイトや、BBS、ブログなどを舞台に展開し、絶えず蓄積、拡大している。しかもそれらは永遠に休むことも閉鎖することもなく、消えることもない。中国のインターネット上に存在する無数の大なり小なりのバーチャルコミュニティの中で、今、漢服運動は既に一定のシェアを占めている。「同袍」と自称するネット利用者たちはこれらのインターネットコミュニティで活動を召集し、情報交換を行っている。また、彼らは自分が参加した活動の写真や知り得た情報をネットに掲載し、展示したり、誇示した

りしている。このようにして、漢服と漢服運動に関する知識や情報はインターネット上で急速に蓄積され、現在、それは若いネット利用者たちにとって漢服知識や漢服運動の理論と実践を学ぶための図書館であり、資料館であり、教室になっている。言論形態が複雑なネットナショナリズムの中で、漢服運動は「漢民族ナショナリズム」と批判されている。漢服運動は、表面的には漢服と中国伝統文化の復興を目的としているが、その深層には漢民族文化本位、漢民族中心主義が存在し、中には種族的、文化的優越感の色彩を帯びた過激な主張もある。しかし、筆者が中国各地でおこなった実地調査によれば、バーチャルコミュニティから現実へ出て、様々な公共空間(公園、広場、歩行者天国)で行う実践的な漢服活動のほとんどは、温和で、穏やかであり、若者たちのピクニックやパーティー、あるいはパフォーマンス、コスプレや芸術的行為とも言うべきものである。これは一部の人々によるインターネットでの強烈な言論とは明らかに対照的である。そのため、ネット上のバーチャルコミュニティの強烈な言論のみで漢服運動を判断すると、誤解が生じる可能性がある。漢服運動に参加している若い「同袍」たちは、ネットのバーチャルコミュニティにそのアイデンティティを構築しているものの、現実生活の中での穏やか且つ活発な文化実践も無視できない重要性を持っていると指摘したい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

周星、萌作為一種「美」、内蒙古大学芸術学院学報、査読有、2013年第1期、1-18

周星、漢服之「美」の建構実践與再生産、江南大学学報、査読有、2012年第2期、94-99

周星、文化遺産與地域社会、河南社会科学、査読有、2011年第2期、37-41

〔学会発表〕(計7件)

周星、什麼是「中式服装」?、西北民族大学民族学與社会学学院講演会(招待講演) 2014年3月28日、中国甘肅省蘭州市西北民族大学榆中校舍

周星、萌作為一種「美」、中国芸術人類学学会 2013年度国際學術研討会(招待講演) 2013年12月25日中国山東省済南市山東大学

周星、「漢服」與「漢服運動」：藝術人類學的個案、中国藝術研究院「中外人類學名家論壇」(招待講演) 2013年3月15日、中国北京市中国藝術研究院藝術人類學研究センター

周星、民族服装與文化实践：有關「漢服」和「漢服運動」、中山大学「千禾」學術講座(招待講演) 2012年12月13日、中国広東省広州市中山大学小礼堂

周星、持續的身体革命：一個多世紀以來服装文化的變遷與中国人自我形象的建構、陝西省商洛学院中文系講演会(招待講演) 2012年2月29日、中国陝西省商州市商洛学院

周星、漢服運動：中国互聯網時代的亞文化、愛知大学 ICCS 主催 2011 年度國際シンポジウム、2011年12月11日、愛知県名古屋市愛知大学車道校舎

周星、漢服之「美」的建構实践與再生産、2011年中国藝術人類學國際學術研討会、2011年11月11日、中国雲南省玉溪市玉溪師範学院

〔図書〕(計2件)

周星主編、学苑出版社、中国藝術人類學基礎讀本、2011年6月、542(272-290)

周星、北京大学出版社、郷土生活的邏輯：人類學視野中的民俗研究、2011年4月、358(263-289)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

周星 (ZHOU Xing)

愛知大学国際コミュニケーション学部・教授

研究者番号：00329591

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者

夏目晶子 (NATSUME Shoko)

愛知大学国際問題研究所・客員研究員

研究者番号：40597647